



法律專攻「演習」

第3次募集



【目次】

1. 募集について
2. 募集に関する注意事項
3. 選考方法
4. ゼミ内容

1. 募集について

【募集スケジュール】

第 1 次 募 集
終了しました。

第 2 次 募 集
終了しました。

第 3 次 募 集	
応 募 期 間	2025 年 3 月 25 日 (火) ~ 4 月 3 日 (木) 12 時 50 分
選 考 期 間	2025 年 4 月 4 日 (金) ~ 4 月 7 日 (月)
合 否 発 表	2025 年 4 月 8 日 (火) 20 時予定 / K-SMAPY II にて

【応募方法】

K-SMAPY II より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPY II からの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので必ず K-SMAPY II からの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

2. 募集に関する注意事項

- (ア) 必ず応募期間に応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ) K-SMAPY II からの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありますので、必ず K-SMAPY II から応募も行ってください。
- (ウ) ゼミごとに募集対象者が決められています。応募登録前に、募集要項で、自分が応募できるゼミはどれかを必ず確認してください。もしも募集対象外のゼミに応募してしまった場合には不合格となりますので、十分注意してください。
- (エ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、応募してください。
- (オ) 毎年ありますが、提出期限を超えたリポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (カ) 演習の具体的な開講曜時は、時間割・シラバスで確認してください。
- (キ) 履修登録の際には、3次募集で応募した演習の開講曜時にほかの科目を登録しないように注意してください。合格した演習とほかの科目が重複した場合、演習が優先して登録されます
- (ク) 政治科目の演習は、政治専攻の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」との合併開講です。
- (ケ) 合格後に、他のゼミへの変更はできません。

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・リポート締切		リポート内容	備考
			面接日時	面接方法		
高山 奈美枝	・新3年生 ・新4年生	レポート	提出方法 kym079299@kokugakuin.ac.jp 締切日時 4月7日(月)12:50	メール送付 ゼミへの志望理由	(書式)自由 (字数)自由	
大江 毅	・新3年生 ・新4年生	レポート	提出方法 アンケート画面で回答 締切日時 4月3日(木)12:50	ゼミ志望理由について	(書式)自由 (字数)自由	
小原 薫	・新3年生 ・編入学生 ・転部転科転専攻の方	レポート	提出方法 メール送付 ohara@kokugakuin.ac.jp 締切日時 4月5日(金) 15:00	小原ゼミを志望する理由と、現在関心のある政治、社会の問題	(書式)自由 (字数)600字程度	
莉田 真司	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生	レポート提出方法 及び面接	面接時に持参 ※4月4日以降に面接があります。 面接日時 4月4日 (金) 14時00分～	自己紹介とこの演習を志望した理由	(書式)A4 (字数)1000字程度	
川村 尚子	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部転科転専攻の方	レポート	提出方法 メール送付 naokawamura1989@kokugakuin.ac.jp 締切日時 4月3日 (木) 12:50	①簡単な自己紹介 ②志望理由 ③民法(財産法)で興味のあるテーマ(理由も含む)	Word (doc.又はdocx.) 又はPDFファイル 文字の大きさ10.5 point 文字数: 2500字以内	
挙 刚	・新3年生 ・編入学生 ・転部転科転専攻の方	レポート提出方法 及び面接	メール送付 sasage@kokugakuin.ac.jp 締切日時 4月6日(日)23:59 面接日時 4月7日 (月) 12時00分～13時00分 オンライン面接	選択した英文の概要とその内容に対する自分の意見 (1) https://www.theguardian.com/law	(書式)自由 (字数)自由	
佐古田 真紀子	・新3年生 ・編入学生 ・転部転科転専攻の方	レポート提出方法 及び面接	メール送付 sakota@kokugakuin.ac.jp 締切日時 4月3日 (木) 12:50 面接日時 4月4日 (金) 16時00分～17時00分	自己紹介、ゼミ志望の動機、ゼミに期待すること (字数)1000字	(書式)word	
佐藤 秀勝	・新3年生	レポート提出方法 及び面接	メール送付 アンケート画面で回答 締切日時 4月3日 (木) 12:50 面接日時 4月4日 (金) 15時00分～	①自己紹介 ②民法のゼミを志望する理由	(書式)自由 (字数)自由	
高内 寿夫	・当該ゼミ履修中の新4年生	レポート	提出方法 メール送付 takauchi@kokugakuin.ac.jp 締切日時 4月5日(土)23:59	少年法、少年非行または子どもに関する社会問題で関心のあるテーマと関心のある理由について	(書式)A4 (字数)500字～1000字	
中川 孝博	・当該ゼミ履修中の新4年生	レポート	提出方法 アンケート画面で回答 締切日時 4月3日(木)12:50	演習を続ける理由	(書式)自由 (字数)自由	
中曾根 玲子	・新3年生 ・編入学生 ・転部転科転専攻の方	レポート提出方法 及び面接	提出方法 メール送付 nakasone@kokugakuin.ac.jp 締切日時 4月5日(土)12:00 面接日時 4月7日 (月) 13時～15時 ※百周年記念館 第3研究室	2021年～2024年の間のニュース(報道)で、会社法・金融商品取引法に関する内容の中から、関心のあるニュース(報道)を選択しなさい。 レポートには、 ①当該ニュースを選択した理由 ②当該ニュースの概要 ③当該ニュースに対する現時点での感想・意見(参照した資料) ④どのようなことをゼミで学修したいかを纏めなさい。	(書式)Word文書(A4用紙に横書き)で、「ある」調。 (字数)タイトル・学籍番号・氏名(メールアドレス)を除き、1600字以上(40字×40行で換算する)。	

希望する教員の選考方法を確認してください。

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・リポート締切		リポート内容	備考
			面接日時	面接方法		
廣瀬 美佳	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部転科転専攻の方	レポート及び面接	提出方法 締切日時 面接日時	メール送付 Uih-kun@kokugakuin.ac.jp 4月6日(日)17:00 4月7日(月) 14時00分～	自己紹介(関心のある問題等を中心) & 志望理由(2024年度からの継続履修希望者は新年度に向けての問題関心等)；	(書式) Word文書(拡張子は.docないし.docx)でA4縦・横書/余白は上下左右とも25mm/50字×48行 (字数)2,000字以内(あくまで上限ですので、短くても可)
宮内 靖彦	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部転科転専攻の方	面接	提出方法 面接のためのアンケート提出方法 面接日時	アンケート画面ご回答 4月3日(木) 12:50まで 面接日の研究室来室時間を送りますので、ご自身のKEANのメールアドレス(@kokugakuin.ac.jp)を記入してください。 面接の前(4月3日(木))までに若木タワー7階の法学資料室のカウンターで「面接のためのアンケート」用紙を受け取り記入して、面接時に持参してください。 4月4日(金) 13時30分～14時30分 ※法学第0711研究室	自己紹介(関心のある問題等を中心) & 志望理由(2024年度からの継続履修希望者は新年度に向けての問題関心等)； 送付するメールの件名に「2025年度廣瀬ゼミ志望」と明記すること	(書式) Word文書(拡張子は.docないし.docx)でA4縦・横書/余白は上下左右とも25mm/50字×48行 (字数)2,000字以内(あくまで上限ですので、短くても可)
宮下 大志	【法律専攻】 ・編入学生 ・転部転科転専攻の方 ・4月に復学する方 ・再入学する方	レポート	提出方法 締切日時	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp 4月4日(金)19:00 ※いのいの場合は、現ゼミ生はレポートを免除します。	【法律専攻の学生】 「これまでに最も興味を持った講義」 【政治専攻の学生】 「現在の日本の政治をどう評価するか」	(書式)自由 (wordもしくはPages) (字数)1200字程度
安田 恵美	・新3年生 ・編入学生 ・転部転科転専攻の方	レポート	提出方法 締切日時	メール送付 0politique0penal0@gmail.com 4月3日(木) 23時59分	ゼミで取り組んでみたい研究テーマとそれを選んだ理由(参考した文献等も記載すること)	(書式) word等テキスト作成ソフトで作成すること、横書き、A4用紙1枚程度 (字数)1200字程度
上神 貴佳	・新3年生 ・新4年生	レポート及び面接	提出方法 締切日時 面接日時	アンケート画面ご回答 4月3日(木) 12:50まで 4月7日(月) 12時00分～12時30分	本演習を志望する理由(メールアドレスを記入すること)	- -
山本 健太郎	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生	レポート	提出方法 締切日時	メール提出 yamakenn17@gmail.com 4月7日(月) 12時00分	ゼミの志望理由	(書式)Wordにて、用紙サイズA4 (字数)自由
古賀 紗子	・新3年生 ・その他	レポート	提出方法 締切日時	メール提出 ayakomoya410@gmail.com 4月3日(木) 13時00分	最近の家族・家族法に関するニュース・トピックで興味を持ったことを自由に論じてください。	(書式)自由 (字数)500字以内
鈴木 達次	・現在ゼミ履修中の新4年生			K-SMAPYへのアンケート回答のみ ※4月3日(木) 12:50まで		

【3次募集の無い先生】

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・リポート締切		リポート内容	備考
			面接日時	面接方法		
姫野 学郎				募集無し		
甘利 航司				募集無し		
一木 孝之				募集無し		
稻垣 浩				募集無し		
植村 勝慶				募集無し		
岡田 康夫				募集無し		
小川 亮				募集無し		
川合 敏樹				募集無し		
坂本 一登				募集無し		
芝崎 祐典				募集無し		
高橋 信行				募集無し		
羅 芝賢				募集無し		
平地 秀哉				募集無し		
福岡 英明				募集無し		
藤嶋 亮				募集無し		
本久 洋一				募集無し		
山下 裕樹				募集無し		
桶田 和子				募集無し		
佐藤 俊輔				募集無し		
古賀 紗子				募集無し		

4. ゼミ内容

教員名	高山 奈美枝
演習テーマ	民法演習
演習内容	<p>この民法演習では民法の基本を習得することを目的とします。民法の基礎についてはある程度すでに学習されていると思いますが、より根本的に考察できるよう、その方法論から学んでいきます。すなわち条文を中心として民法の規定する諸制度、および判例・学説を整理し、より明晰な形で問題を提起・検討を行い、結論を導くことを試みます。またさらなる調査・研究を行っていけるような力をつけるため、資料収集や発表の方法についても学んでいきます。民法の財産法ならびに身分法のすべてを対象の中心としながら、それぞれの関心に応じた課題を見つけていただいて結構です。</p> <p>民法は〈私〉の生きるためのルールの集合です。それは大変豊かな内容と大きな歴史を有しています。そのようなことも学ぶ機会にしていきたいと思います。</p>
教科書	適宜指示します。
参考文献	適宜指示します。
備考	

教員名	大江 肇
演習テーマ	民事訴訟法演習
演習内容	<p>この演習は、民事訴訟法に関する理解を深めることを最終的な目標とします。</p> <p>令和7年度の演習では、民事訴訟に関する文献・判例を素材に討論するとともに、ゼミ生各自が取り組みたいテーマについて、最終的には論文ないしレポートの形に仕上げることを目指したいと考えています。もっとも、ゼミは受講生が創りあげるものだと、担当教員は考えています。他に取り組んでみたいテーマや事柄があれば、応募のためのレポートの中で適宜お申し出ください。具体的な授業スケジュール・使用教材等については、受講生と相談して決めます。なお、令和6年度は、民事訴訟法に関する判例の検討を実施中です。</p> <p>ゼミ生の選考は、提出されたレポートを資料として行います。レポートには、ゼミ生の意向を可能な限りゼミ運営に反映させるため、少なくとも、ゼミ志望理由、ゼミで取り組んでみたいテーマないし課題、ゼミへの要望等について記述し(箇条書きでよい)、K-Smapy IIのアンケート画面から応募してください。ただし、現ゼミ生については、レポートの提出を免除します(応募は必須です)。</p>
教科書	追って指示します。
参考文献	追って指示します。
備考	

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本の政治、思想を考える
演習内容	<p>足りない年金、選択制夫婦別姓、米中貿易戦争、ウクライナ紛争、パレスチナ問題等、日本を取り巻く問題は山積している。そうした中で、傍観者として臨むのではなく、何が問題なのか、より深く考えて考察する必要がある。</p> <p>小原ゼミでは、前期は、新書を中心に、現在の日本を取り巻く問題について、討論を行う。後期は、各自が設定するテーマに従って、調査・研究を行い、隨時、中間報告を行なながら、一つのレポートとしてまとめることを目指す。</p> <p>無断欠席は認めない。積極的にゼミ活動に参加し、討論する積極的な学生の参加を望みます。</p>
教科書	ゼミ開始時に指定します。新書を2, 3冊予定
参考文献	
備考	

教員名	莉田 真司
演習テーマ	ジョン・ロールズと現代政治哲学の基礎
演習内容	<p>政治にかかわるさまざまな価値や考え方について、原理的に検討していくのが、政治哲学と呼ばれる分野です。50年ほど前にジョン・ロールズという政治学者によって、この分野に大きな転換がもたらされました。</p> <p>所得の再分配の問題を始め、多文化共存の問題、国際的な不平等は正の問題、世代間正義の問題、など、現代の諸課題に関する政治哲学的な議論のほとんどは、ロールズの思想から始まっています。(なお、ロールズのいう「正義」とは、「公正」のことで、「悪」に対する「正しいこと」という意味ではないので、注意してください。)</p> <p>今年度の演習では、ロールズの思想を検討することで、現代の政治哲学の基本的な考え方を理解することを目標とします。最近出たロールズ思想の入門書を使い、その要点を整理し、さらにロールズ思想の広がりについても考えて行く予定です。</p> <p>演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。また、演習参加者には、自分の好きなテーマについて論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。</p> <p>選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
教科書	<p>『今を生きる思想 ジョン・ロールズ 誰もが「生きづらくない社会」へ』、講談社現代新書、2024年</p> <p>『ジョン・ロールズ 社会正義の探求者』、中公新書、2021年</p> <p>神島裕子、『正義とは何か 現代政治哲学の6つの視点』、2018年</p>
参考文献	<p>マイケル・サンデル、『これから正義の話をしよう』、ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年</p> <p>ジョン・ロールズ、『公正としての正義 再説』、岩波現代文庫、2020年</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> 面接日に都合が悪い等の連絡や、演習内容についての質問は、karita@kokugakuin.ac.jpまでメールで送ってください。 「政治哲学入門」を履修済み・履修中・履修予定のいずれかであることが望ましいです(応募条件ではありません)。

教員名	川村 尚子
演習テーマ	民法判例演習
演習内容	<p>この演習では、民法のうち、主として財産法に関する基本問題を取り上げ、具体的な事例を検討対象としながら、民法の基本的な制度、その趣旨、機能について学修していきます。基本的な知識を習得することはもちろんですが、なにが問題となっているのかを発見し、資料等を調査・収集し検討をおこなったうえで、その結果を説明して議論する力を養うことを目指します。</p> <p>具体的には、最高裁の重要判例について担当班にレジュメを用いて報告してもらい、それに基づいて全体で討論をします。したがって、担当班以外の受講生にも予習をして積極的に発言することが求められます。どの判例をとりあげるかについては、最初の授業のときにみなさんの意見も聞きながら決めたいと思います。また、各学期末に各自が選択したテーマについてレポートを提出してもらいます。</p> <p>もっとも、いきなり報告に入るのは難しいので、最初の1回～3回目までの授業では、全体で判例を読みながら、判例の読み方や文献の収集の仕方等についてレクチャーする予定です。</p> <p>評価については、レポート、出席、報告、討論・質疑などを総合的に評価します。</p> <p>コンパや合宿は、受講生の希望に応じて、受講生に企画してもらい、実施しています。</p>
教科書	授業時に適宜指示します。
参考文献	授業時に適宜指示します。
備考	<p>この授業は、演習であるため、原則として欠席は認めません。</p> <p>やむを得ない事情がある場合にのみ欠席を認めますが、その際には、必ず事前に川村まで直接連絡するようにお願いしています。</p>

教員名	捧 剛
演習テーマ	ちょっと専門的な英文を読んでみたい。ついでに、それをもとに意見を述べてみたい。
演習内容	<p>この演習は、たとえ現在はほとんど英文が読めなくても、種々の目的のために(もちろん、単なる好奇心でもOKです)、英語で書かれたちょっと専門的な文章を読んでみたい、そして、願わくは、現在よりは、そうした英文をよりよく読めるようになりたいという人向けのものとなっています。</p> <p>そのために、毎回、事前に配布された英文(おそらく、その多くは新聞記事になると思います)の日本語訳を発表してもらいます(英文の長さや難易度は、参加者のスキルにあわせて調整するつもりです)。そして、その内容について各人が思ったこと、感じたことを日本語で述べてもらおうと思っています。</p> <p>面接(5～10分程度)においては、主として、なぜ、この演習を志望するのかをお聞きすることになりますが、それに先だって、自分の「やる気」を示す材料として、以下のURLのいずれかにアクセスして、そこにある英文記事のどれか1つに目を通し、その記事の概要と記事が扱っている問題について自分はどうに考えるかを日本語で書いたものをメールでお送りください(形式、字数はご自由に。ただし、どの記事を読んだのかがわかるように、記事の英文タイトルを必ず記載してください)。なお、現在この演習を履修している3年生については、選考を免除します。</p> <p>(1) https://www.theguardian.com/law (2) https://www.independent.co.uk/voices/ (3) https://www.bbc.co.uk/news/uk</p>
教科書	なし
参考文献	なし(それほど難しくない[と思われる])英文資料(主として、新聞記事)を、毎回配布します。
備考	なし

教員名	佐古田 真紀子
演習テーマ	民事手続法の事案について議論する
演習内容	<p>民事手続法の近時的重要判例を取り上げて、その論点を深く掘り下げます。毎回のゼミでは、報告担当チームが報告を行った後、ゼミ生全員がざっくばらんに質問や意見を出し合います。ゼミ生同士の話し合いを通して理解を深め、徐々に手続法的な考え方を修得していきます。</p> <p>当ゼミのメインイベントは、毎年 10 月に開催される民事訴訟法合同ゼミナールへの参加です。合同ゼミには、北は北海道、南は沖縄まで全国の大学から約 17 ゼミ 300 余名の民訴ゼミ生が集います。それまでの期間、ゼミ生は協力し合って準備を重ね、合同ゼミ当日は、他大学のゼミと楽しく充実した討論を行います。前日の開会式では、各ゼミのゼミ長によるユーモアたっぷりのゼミ紹介があり、また、討論終了後の懇親会では、他大学の学生や教員と交流を深めて盛り上がります。なお、討論に勝敗はありません。異なる観点から意見を交換することで、問題点をより深く掘り下げて理解することを目的とします。しっかり準備さえすれば、誰でも必ず法律の討論をすることはできますので、心配は無用です。この活動を通して、論理的思考能力・叙述能力を養成するのはもちろんのこと、各人が主体的に行動しつつチームで協働して目的を達成した経験は、就職活動でも役立つことでしょう。人前で話すことに苦手意識がある方、人前でうまく話せるようになりたい方も大歓迎です。</p>
教科書	教科書は使用しません。使用する教材は、授業中にその都度、指示します。
参考文献	<p>伊藤真『民事訴訟法(第 8 版)』(有斐閣)</p> <p>高橋宏志『重点講義民事訴訟法上下(第 2 版補訂版)』(有斐閣)</p> <p>高橋宏志他編『民事訴訟法判例百選(第 6 版)』(有斐閣)</p>
備考	<p>民事訴訟法 IAB、民法総則、債権各論、債権総論、物権の講義を履修済みであるか、同時に履修することが必要です。</p> <p>担当教員は 2025 年 3 月まで在外研究中であるため、現在、ゼミ生はいません。皆さん自身で、ゼミの新たな伝統を築いてください。</p> <p>質問がある方は、sakota@kokugakuin.ac.jp までお気軽にご連絡ください。</p>

教員名	廣瀬 美佳
演習テーマ	私たちを取り巻く社会と医療と法(仮)
演習内容	<p>本演習では、基本的には、初回の授業で履修者と相談の上、その年度のテーマを決めることになります(2024 年度は、一応、担当教員の方で、本人のライフワークであり医事法の授業でも講義しているところをテーマに掲げたところ、これに興味をもった学生が応募・履修することとなり、前期～後期を通じて、尊厳死＆安楽死や終末期医療、医師の説明義務、医療過誤訴訟、高齢者に係る事業と身元保証ビジネスをめぐる問題等、履修者がそれぞれの関心のあるテーマにつき、調べて報告をするという形で一途中でテーマを変更した履修者もいますが一進めていました)。</p> <p>ですので、2025 年度についても、上記のように、医療問題を一応のテーマとしておきますが、面接時に履修(希望)者それぞれがどういった方面に関心を持っているか等につき把握した上で、最終的には、年度初回の授業時に全員が顔を合わせたところで、全体テーマ/個別テーマ、半期ないし通年のゼミの進め方などにつき、相談の上、決定する予定です。但し、担当教員の専門性との関係で、医療問題ないしその周辺を扱うこととした方がよりスムーズなゼミ運営につながるでしょうし、例えば憲法や刑法は全くの専門外ですので、いずれにしても、民法そのもの、あるいは、医事法でも民法の観点からアプローチすることを中心に、勉強していくことになるものと思われます。</p>
教科書・参考書	授業時等に適宜指示します。
備考	<p>(01) <u>事前の志望理由等(レポート)提出について:</u> 必ず、提出締切日である 2025. 04. 06. (日)17:00 までに廣瀬のアドレス uh-kun@kokugakuin.ac.jp 宛に着信するよう、送付すること(その際、04. 07. (月) の 14:00～の時間帯に面接を受けることが「アルバイト等の用事と重なっている」等の理由により不可である場合には、その旨一代わりの面接可能日時があれば、その点をも含めて一、明記すること)。折り返し、面接用の Zoom の招待状をお送りします&レポートを提出しないと面接を受けられなくなるので、注意すること(第 1 次募集でも第 2 次募集でも、レポート未提出で不合格となった応募者が複数いましたので、念のため)。</p> <p>(02) <u>選考日時について:</u> 事情により当該日時に面接を受けられない場合は、予め、その旨申し出ること(上記(01)参照)。なお、面接の終了時刻は応募人数により前後するため明記しない&面接に要する時間は応募者 1 人につき 15～20 分程度を目安とします。</p> <p>(03) <u>履修者数について:</u> 参加者全員による議論を成立させるため、新 3・4 年生合わせて 15 名程度を上限としたい(2025. 03. 10. 現在、第 1 次+第 2 次=7 名が履修予定)。</p>

教員名	宮内 靖彦
演習テーマ	国際法で遊ぶ
演習内容	<p>国際法は、日常生活で目の前に見えてこないので、なかなか馴染みにくく、想像しにくいと思います。しかし、国内の生活で使われている法律の背後にはすべて国際法が作動していて、どこまで法律が及ぶか決めるのも、国家間で両国の国内法が衝突して生ずる国際紛争を処理するのも国際法です。</p> <p>そういった国際法を材料にして、ゼミ生みんなで何かをして遊ぼうというのが2025年度の共通テーマです。何をして「遊ぶ」かは、ゼミ生みんなで相談して決めます。ゼミの参加者数が多ければ、国際法の模擬裁判ができます。あるいは、1冊の本をみんなで読み、書評会やビブリオバトルをするのもいいでしょう。あるいは、みんなで一つの事例やテーマを追いかけて色々考えることもできますし、各自の関心に従って各自の決めたテーマを追求しつつローテーションで報告しながら、法学会の懸賞論文に応募する論文を書き上げることもできます。何をするかは、ゼミの開始時に相談して決めたいと思います。</p> <p>とにかく、「国際法で遊ぶ」ことに関心がある人、まず来てください。</p>
教科書	テーマに応じて、授業開始時に指示します
参考文献	テーマに応じて、指示します
備考	<ul style="list-style-type: none"> 面接時間は、KEANのメールアドレスの受信フォルダに送られた私からのメールで確認してください。 面接日（4月4日（金））正午までに、若木タワー7階の法学資料室のカウンターで「面接のためのアンケート」用紙を受け取り、あらかじめ記入して、面接時に持参してください。

教員名	宮下 大志
演習テーマ	「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来、どうしたらしい？」
演習内容	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>あなたは、現在の日本の政治、そして（ちょっと抽象的になってしまいますが）日本の民主主義についてどう思っているでしょうか？</p> <p>また社会の状況としても、格差問題、女性の権利の問題などをどうするべきか、問い合わせられている状況ではないかと思いますが、どう考えますか？</p> <p>どちらについても、人によって評価はさまざまでしょう。それが現状だと思います。</p> <p>そこで来年度のゼミでは、この日本の政治・民主主義さらには日本の社会について、多様な意見を持った人に集まってもらい、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のるべき姿を議論したり、ということをみなさんとやってゆく予定です。</p> <p>そしてその際には、多少は欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、「これまでにもっとも興味を持った講義」という題目で、これまで履修した講義のうち、もっとも興味を持った講義について、その内容を紹介しながら、そこから自分が何を考えたかを記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。</p>
教科書	開講時に指定します
参考文献	必要に応じて紹介します
備考	オンライン面接は要項明記の日時で開始しますが、個別の面接となりますので個別の面接の開始時刻については、レポート提出のメールへの返信としてお知らせします。要項明記の日時に都合が悪い場合（できる限り都合を合わせてください）には、レポート提出のメールでお知らせください。

教員名	安田 恵美
演習テーマ	「犯罪をした人」の社会参加／社会包摶を考える
演習内容	令和4年6月に、刑法等の一部を改正する法律案が可決されました。この法律案の中には、「自由刑」に関する規定の改正も盛り込まれています。令和6年度の演習では、特に、刑法新12条において用いられている「改善更生」という語に着目し、その意味とあるべき施策について批判的に検討を行うことを予定しています。前期は、この点について、文献を精読し、ディスカッションを行います。後期は、前期の内容を踏まえ、各々が設定したテーマについてレポート（1万字程度）の執筆作業を行います。具体的には、「問い合わせ」の設定、論文の構成を考える作業、そして、グループ内での添削作業といった作業を行います。このほかに、他大学との合同討論会、フィールドワーク・刑事施設等の見学、実務家等への聞き取り調査等を行うこともあります。これらのイベントは夏休み等の授業外の時間に実施することがあります。
教科書	武内謙治=本庄武『刑事政策学』（日本評論社、2019）
参考文献	
備考	応募の際には、演習で取みたいトピックに関するレポートを0politique0pena10@gmail.comに送信してください。その際、理論・法制度・実務等の現状とそこに存する問題点に必ず言及してください。また、メールの本文には、面談希望時間と面談の方法（zoomか対面か）についても記載してください。面談の詳細については、メールにてご連絡します。

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2019年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。</p>
教科書	小熊英二（編）『平成史【完全版】』河出書房新社、2019年。
参考文献	<p>薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣、2014年。</p> <p>佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館、2018年。</p> <p>など</p>
備考	

教員名	山本 健太郎
演習テーマ	選挙を科学する
演習内容	<p>2025 年は夏に東京都議会議員選挙と参議院選挙が予定されており、場合によっては衆議院選挙も実施されるかもしれません。本ゼミでは、現在進行形の選挙を題材に、選挙という人間ドラマを科学的にとらえ、分析することを目指します。</p> <p>まずは初めは、選挙を科学するためのお手本として、書籍や学術論文を輪読します。一例として、選挙カーによる名前の連呼は効果があるのか、天気によって投票率は左右されるのかなどについて学びます。</p> <p>そのうえで、みなさんの多くが選挙権を得て間もない若年層の有権者であることを踏まえ、若年層と選挙の関わりについて、ワークショップ形式で分析します。具体的には、選挙は若い世代ほど投票率が低い傾向にありますが、それはなぜなのか、またどのような対策によって政治的関心を高められるかについて、当事者ならではの視点を出してもらいながらグループ形式で検討します。</p> <p>さらに、夏の都議選や参院選を題材に、候補者や政党の SNS 戦略やその実態について、リアルタイムで観察しながら追いかけます。投票率や選挙結果、選挙公約などについても情報をシェアして分析します。</p> <p>最終的には、選挙や政治に関するテーマ（内容は自由）を一つ選び、パワーポイントを利用して一人につき 20 分程度のプレゼンテーションを行います。</p> <p>このゼミではグループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを多めに取り入れていきます。コミュニケーションが得意な人はもちろんですが、今は人前で話すのが苦手でも、ゼミで練習してスキルアップを図りたいという意欲がある人は参加を歓迎します。</p>
教科書	特になし
参考文献	必要に応じて、ゼミの際に紹介します。
備考	<p>担当教員の着任に伴い、本ゼミは令和 7 年度から新規開講されます。まだゼミ生がいませんので、履修者の希望に応じて内容は柔軟に変更しながら対応していきます。現在進行形の政治に興味があって、色々やってみたいことがあるという人は積極的に申し込んでください。</p> <p>質問などがある場合は、メールでご遠慮なくお尋ねください。</p> <p>yamakenn17@gmail.com</p> <p>なお、演習の無断欠席は認められません。やむを得ず欠席する場合は事前に担当教員まで連絡することが求められます。</p>

教員名	古賀 紗子
演習テーマ	家族と家族法の変化を追い、考える
演習内容	<p>本演習では、家族法に関する裁判例、法改正、および、統計資料を素材とし、日本の家族と家族法がなぜ、どのように変わってきたかを追うことで、今後、家族法はどうあるべきかを考え、求めて行きます。</p> <p>家族法つまり民法の親族・相続編は、戦後直後の大改正以降、2000年代頃までは目立った改正が少なく、安定した法領域でした。もっとも、その間も実際の家族の在り方は変化し、新たな課題や紛争が生じていました。それらの解決やルール作りは、主に裁判が担ってきましたが、2010年代に入り、裁判例の蓄積を踏まえつつ、加速する家族の実態の変化に対応するための大きな法改正が相次いでいます。今後も、離婚後の共同親権制導入を含む親権法改正が2026年に施行予定であるとともに、夫婦同氏制の見直しや同性婚の導入へ向けた議論も活発化するなど、変化のペースは緩まる気配を見せません。</p> <p>そうした中で、家族法は今後どうあるべきかが大きな関心を呼んでいます。その検討のためには、裁判例や法改正などの法制度の変遷が実際の家族に及ぼしてきた影響も射程に入れ、制度と現実の相互作用という視点から検討することが重要となります。そこで、家族の実情を知る手がかりとして、各種統計資料にも適宜触れて行きます。</p> <p>本演習は今年度から始まる新しい演習です。具体的な運営方法については、第1期生となる皆さんの意見を聴きながら、一緒に考え、授業を作り上げていきたいと思います。</p>
教科書	大村敦志他編『民法判例百選Ⅲ 親族・相続』第3版（有斐閣、2023年）等（他は開講時にお伝えいたします。）
参考文献	開講時にお伝えします。
備考	本演習を履修される場合、「民法（親族・相続）」を併行履修してください。 (現3年生で、既に履修済みの場合は不要です)

教員名	鈴木 達次
演習テーマ	会社法判例研究
演習内容	<p>【内容】</p> <p>会社法の基礎判例を取り上げて研究を行います。</p> <p>皆さんの中には、現在会社法の講義を受けているか、あるいは過去に受けたことと思います。しかし、民法や刑法と異なり、会社法は抽象度が高く、講義だけでは、それがどのように適用されるか、イメージすることは難しかったでしょう。そのためには、具体的な事案（判例）に即して適用関係を学ぶ必要があります。このゼミが会社法の基礎判例を取り上げるのはそのような理由からです。</p> <p>会社法は会社組織のあり方や取引相手との関係にまつわる法律問題を解決するルールです。大学時代にしっかり学んでおきましょう。</p> <p>【運営】</p> <p>司会者の進行にしたがって報告者が基調報告を行い、それに基づいて受講生全員が討論します。報告者はレジュメを用意し、それ以外の方もちゃんと予習をしてくる必要があります。</p> <p>最初のうちは難解に思えるでしょうが、毎週予習してゼミに臨むことにより、少しずつ問題点が分かってきます。議論も活発にできるようになり、徐々に会社法が面白く感じられるようになるでしょう。やがては「中毒」といっていいほどゼミにのめりこむことになります。</p> <p>【成績評価】</p> <p>司会、報告および討論の内容により総合的に評価します。なお、正当な理由なく遅刻・欠席した場合には単位は認定されません。</p>
教科書	第1回講義の際説明します。なお、六法は毎回持参してください。
参考文献	第1回講義の際説明します。
備考	レポートには①自己紹介および②「会社法の基礎」の感想（よかった点や難しかった点など）の2点を記述してください。もし「会社法の基礎」を履修していない場合には「民事法入門」の感想を、その両方とも未履修ならば民事法系科目のうち一つを選んで書いてください。